

戦後80年を考える

戦時下における丹波の記憶

第二次世界大戦が終戦し、今年で80年の節目を迎えます。多くの人々の命を奪った戦争の悲惨さを再認識し、平和の尊さを考えることは、後世を生きる私たちの大切な使命です。今回の特集では、戦時中の丹波の暮らしから戦争について振り返ります。

戦時中の丹波の暮らし

戦争中の国や地域において、戦場ではない場所のことを「銃後」と呼びます。銃後の丹波地域は、県内でも沿岸の阪神地域とは異なり、アメリカ軍による直接的な被害はほとんどない地域でした。そのため、本土空襲が激しくなると、空襲による被害を避けるために、都市部から多くの人々が丹波に「疎開（そかい）①」してきました。

中でも、学童疎開の受け入れ先は、柏原中学校（現柏原高等学校）などの学校や、円通寺、慧日寺、石像寺などの寺院でした。

丹波から戦地へ向かった人々

一方、徴兵令（※②）が施行さ

れて以後、丹波からも多くの人々が軍からの召集令状を受けて徴兵され、戦時下になると家族を残して海外へ出征しました。

出征先は、中国大陆の北から南、東南アジアのフィリピン、ビルマ（現ミャンマー）、ニューギニア島など様々で、日本とは異なる厳しい環境での従軍生活を強いられました。さらに、戦闘や病気で命を落としたり、出征先で行方不明になった人も数多くいました。

企画展で戦争を振り返る

戦後80年を振り返るにあたり、市では、春日歴史民俗資料館で、夏季企画展「戦後80年 銃後の丹波 兵士の戦場」を開催します。

※①疎開

※②徴兵令

災害や空襲に備えて、都会の人や物資・工場などを他の地に移すこと
明治6年に施行された、国民の兵役の義務を定めた法令



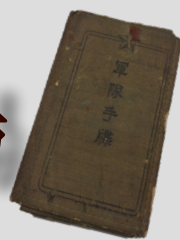
ID 1962

春日歴史民俗資料館 令和7年度夏季企画展

戦後80年

銃後の丹波 兵士の戦場

7月26日(土)～8月31日(日)



(左) 稲俣人形「ラッパ兵」(市島民俗資料館蔵)
(右) 軍隊手帳(春日歴史民俗資料館蔵)

春日歴史民俗資料館の夏季企画展「戦後80年 銃後の丹波 兵士の戦場」では、銃後の丹波を生き延びた人々について、学校や疎開先での生活、金属の供出、残された出征兵士の家族など、様々な観点から見つめます。また、従軍・出征した人々のご遺族のご協力のもと、従軍関係資料を数多く出展します。「戦時中の丹波で暮らした人々」と「丹波から出征した兵士たち」の2つの視点から、兵士たちが見たのはどのような戦場だったのか、また、残された銃後の人々がどのような生活を送っていたのか、写真や実物の資料を通して読み解きます。

関連イベント ※受講料無料・申込不要

細見綾子生家資料調査報告 手紙からみる戦争

日時：7月27日(日)
午後1時30分～3時
会場：青垣住民センター 大会議室
講師：井上 舞
(神戸大学大学院人文学研究科 特命講師)
定員：50人程度

担当学芸員による ギャラリートーク

日時：8月2日(土)
午後2時～2時50分
会場：春日歴史民俗資料館
※入館料が別途必要
講師：担当学芸員
定員：10人程度

丹波の銃後と生活

日時：8月23日(土)
午後1時30分～3時
会場：春日住民センター 大会議室
講師：担当学芸員
定員：50人程度



甲南初等学校疎開時集合写真(個人蔵)



上久下国民学校補修課の薙刀稽古写真(個人蔵)

【会場】 春日歴史民俗資料館(春日住民センター南側)
【問合せ先】 社会教育・文化財課 ☎ 70-0819
【入館料】 一般210円、中学生100円、小学生50円
【開館時間】 午前9時～午後5時
【休館日】 月曜日(祝日の場合は翌平日)